

「第13回全国川サミットin十津川」共同宣言文

紀伊山地の山々は、世界遺産に登録された信仰の森でもあり、神々が御座す深山幽谷と呼ぶに相応しい原始の佇まいを今に残しています。十津川は、この山々を源流とする幾多の支流を集め、やがて和歌山県熊野川町で北山川と合流し近畿最大の川、「熊野川」となって太平洋に注いでいます。

いにしへの十津川は、清らかな水をたたえ、人はもとより木材の運搬や生活物資を運ぶ「道」として大きな役割を果たしてきました。しかしながら、私たちは豊かな暮らしを求め、河川や森林に少なからぬ影響を与えてきました。

「第13回全国川サミットin十津川」は、川が発している様々な警告に耳を傾け、悠々の流れの中で連綿と刻まれてきた川と森の深い関わりを改めて見つめ直し、「良好な河川環境と森林環境のあり方」について行政と村民が一体となって考える機会とすることをテーマに開催しました。

全国の人々が川の重要性を今一度認識し、豊かな河川環境を次代に引き継ぎ、川との共生をめざした社会を築くため私たちは次のことを宣言します。

1. 「先人が厳しい自然と向き合い、川を守った歴史を大切にします」
「私たちは、川の歴史を見つめ、先人が培った知恵に学びます」
1. 「次代を担う子どもたちと共に、川を守る心を育みます」
「私たちは、自然について学習を深め、川を愛する心を高めます」
1. 「清流の源である森林の保全対策と啓発に力を注ぎます」
「私たちは、清らかな川を残すため、森林環境について学習します」
1. 「地域との交流を図り、協力して川の愛護に努めます」
「私たちは、上流と下流に住む人々と力を合わせ、川を守ります」
1. 「豊かな水と森林に囲まれた国土づくりに励みます」
「私たちは、全国の人々と友好を深め、川を守る生活をめざします」

平成16年10月23日 第13回全国川サミットin十津川 参加者一同

